

## 令和3年度 第30回全国女性建築士連絡協議会（福岡）アピール

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、今年で第30回の節目を迎えました。女性委員会を立ち上げられました初代の女性委員長はじめ歴代女性委員長、連合会会長および女性委員会担当副会長、各都道府県建築士会会長や女性委員会（部会）、そして事務局など多くの方々のご協力とご理解の下に継続出来たことと深く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら同協議会を開催することができませんでした。本年も、未だ終息の見えない中ではありますが、オンライン配信での参加を取り入れると共に一部内容を変更することで、福岡にて無事開催することができました。

同協議会では、平成23年の東日本大震災以降、全国各地で発生しました災害の状況や復興支援活動について毎回ご報告いただいております。今年で東日本大震災から10年となりました。振り返りますと、この10年の間には多くの災害がありました。年月が経っても忘れてはならないという思いと情報発信継続の大切さから、地域と一体となった防災活動の指針となる事を目指してこれからも継続していきます。今年も、東日本大震災の現在の状況と、一昨年、昨年の集中豪雨の被害について、福島県建築士会、宮城県建築士会、長野県建築士会、千葉県建築士会、熊本県建築士会よりご報告をいただきました。これからも継続して情報を共有し、建築士としてどのような活動が必要か、共に模索してまいりたいと考えます。

さて今回、メインテーマの「未来へつなぐ居住環境づくり」を継続し、～建築空間を支える木の文化 木挽棟梁のモノサシ～をサブテーマにいたしました。私たち女性建築士は、木材等の自然素材を活かした建築空間や要素を改めて見直し、これからの居住環境づくりに活かしていきたいと考えます。

午前の分科会では、「心地よい和の空間」「会員拡大へ向けた取り組み／楽しむことを忘れない軽やかな女性たち」「伴せもついてくる高性能なエコハウス」「子どもとまち・建築～誰でも昔は子どもだった～」 「熊本地震で被災した古民家を活かしたまちづくり」「高齢社会とまちづくり／私のまち 起承転…」 「森林で自立する村づくりと熊本復興支援」「空き家 見えるカルテ」の8つのテーマのもとに報告をいたしました。

午後の全体会では、現代の木挽棟梁としてご活躍の有限会社杉岡製材所の杉岡世邦氏をお迎えし、杉の文化の研究と情報発信の方法、また、現代の木挽棟梁としての活動についてご講演頂きました。それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信してまいります。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士として、また、生活者としての視点から、住まいづくり、まちづくりを考え、安心安全な居住環境づくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として、木材等の自然素材を活かした建築空間や要素を改めて見直し、日本の木の文化を次世代に伝えることに取り組んでまいります。
3. 私たちは、継続してきた災害報告等を通し、女性建築士として、復興支援のあり方や地域における適切な防災活動と、災害時における支援活動の方法を見直していきます。
4. 私たち女性建築士は、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、暮らしやすい社会の実現のために日々努力してまいります。